

月刊 ウィーン

GEKKAN-WIEN

Monatsmagazin Japanisch

現地オリジナル取材と編集で
ウィーンを伝える月刊情報紙

創刊平成元年 創刊37年目 Nr. 421

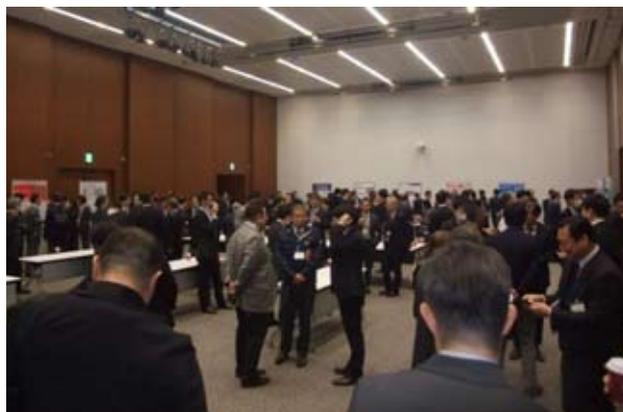
2025年4月号



杉本純の原子力の話II ウィーンと京都

経済産業省資源エネルギー庁と日本原子力産業協会は三月一日、国内原子力関連企業による海外展開や事業承継、人材育成支援など、原子力サプライチェーンの維持・強化策について議論する「原子力サプライチェーンシンポジウム」を都内ホールで開催した。会場、オンライン合わせて約六〇〇名の参加があった。

開会に際し、ビデオメッセージを寄せた武藤容治経産相は、二月に閣議決定された第七次エネルギー基本計画に言及し、既設炉の再稼働と運転期間延長を最重要課題にあげたほか、将来の次世代革新炉の開発に向



ポスターセッションの様相
コーヒーブレイクを兼ね交流の場となった
<https://www.jaif.or.jp/journal/japan/27092.html>

たヒアリングなど、原子力人材育成支援も含めた支援策を積極的に展開している。

「原子力産業の現在と未来」と題するセッションでは、総合資源エネルギー調査会革新炉フューリンググループ座長を務める齊藤拓巳氏（東京大学教授）、電気事業連合会副会長の佐々木敏春氏がそれぞれの立場から事業の予見性確保の重要性を強調した。

パナセーションは、近藤寛子氏（マトリクス代表）がファシリテーターを務め、大手メーカーの他、中小サプライチェーン企業からもパネリストが登壇し、次世代革新炉の開発・建設に向けた取組、供給途絶対策、国際連携、人材確保・育成について議論。同じく登壇した経産省と文科省の担当課長は、省庁が連携した取組の重要性を強調した。

今回もポスターセッションが行われ、革新炉開発に取り組む大手メーカーの他、プラントの健全性を支えるバルブ・配管等を製造する中小企業も参加。海外展開も見据えて、それぞれの強みをアピールしていた。（以上、原子力産業新聞記事「原子力サプライチェーンシンポジウム開催」より転載。図中「U」参照）

さて、今月のウィーンと京都の対比では、両地に生きたる動物（その九）を紹介したい。ウィーン市内のシユテファン大聖堂前などの広場やプラーター公園などの公園内でハトをよく見かける。正確にはドバトが主流で、カフラバトに近い外見の個体が多く見られる。ウィーンのハトは比較的人を警戒する個体が多く、特に厳しい冬には公共施設の軒先や彫像の上でじっと寒さをしのぐ姿が見られる。ウィーンに長年暮らしたベーターヴェンは、動物好きで知られ、特に犬や鳥を好んだといわれている。彼が住んでいた家の周辺にはハトが多く集まり、ベーターヴェンが作曲に没頭している最中も、その鳴き声が聞こえていたという。皇帝フランツ・ヨーゼフ一世の治世下で、リンク通りの建設が進められ、現在ハトが多く生息する公園や広場も整備された。彼の愛したシエンブルン宮殿の庭園では、現在もハトが多数生息し、宮殿の景観の一部になっている。ウィーンではハトは「愛らしい都市の一部」と見なされることもあるが、増えすぎたハトによる糞

害がむしる問題視され、歴史的建造物にはハトよけの対策が施されている。

一方、京都に生息するハトの多くもドバトであり、市街地の神社仏閣や公園、駅前広場などに多数生息し、特に観光地では人懐っこい個体も見られる。食べ物を求めて人々の周囲に集まりやすく、パンくずや穀物などを好んで食べる。室町幕府三代将軍・足利義満は、石清水八幡宮（京都府八幡市）への信仰を厚くしていた。石清水八幡宮では、八幡神の使いとしてハトが神聖視されており、境内では現在も多くのハトが見られる。義満はたびたひ同宮を訪れ、幕府の権威を示す場としても活用した。このような背景から、義満の時代にはハトが神聖な存在として強調されていた。豊臣秀吉は、伏見稲荷大社を深く信仰しており、社殿の修復や奉納を行った。稲荷信仰ではキツネが主神の使いとされているが、一部の説では、ハトも「神の使い」として祀られることがあったという。また、秀吉の築いた伏見城の跡地にもハトが多く生息し、京都の歴史とハトの結びつきを感じさせる場所の一つになっている。ハトは日本全体で平和の象徴であるが、京都ではハトは神聖な意味を持つことが多く、観光地で親しまれている。

余談であるが、筆者がウィーン在住時は、シユテファン大聖堂前やプラーター公園内でよくハトを目撃した。どちらかと言うと害鳥扱いされているとは夢にも思わなかった。京都でも平安神宮や鴨川沿いなどでハトをよく見かけたが、神の使いとはこちらでも知らなかった。今月も両地に生きたる動物を紹介することができた幸運に感謝しつつ、ウィーン



市内の路上で遊ぶハトの写真を掲載させていただく。

■ 杉本純 東京科学大学特任教授
元京都大学教授
元原子力機構ウィーン事務所長 ■

